

組織評価の改善状況報告書

平成 27 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

人文社会科学部長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成26年度の改善状況を報告します。

要改善事項
「総合知」獲得カリキュラムの発展と検証プロセスの構築
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
学部の教育企画委員会内部に「総合知育成のための組織的取り組み」に関するワーキング・グループを立ち上げ、カリキュラム改革案を作成する（既に立ち上げ済み）。具体的には、既に他学科の専門領域を学習するために立てられている学部共通科目の充実化を図り（今年度後期より「人文社会科学の課題と探究Ⅰ、Ⅱ」開設）、さらに副専攻的な履修モデルを提示するなどして、他学科科目の履修を促す（別表や学部案内作成時期までに）。
改善状況
学部共通専門科目の4学科すべての学生が履修できる科目では25年度の「人文社会科学の課題と探究Ⅰ」に続き、「人文社会科学の課題と探究Ⅱ」（法学科・経済学科担当）を開講し、この授業においては、格差・貧困や労働、性の問題といった社会的関心事となっている個々のテーマを取りあげ、それらに一般的な法学、経済学がそれぞれどのようにアプローチするかを法学科、経済学科の教員がレクチャーした後、レクチャーに対する学生からのコメントペーパー提出とそれに対する教員のフィードバックを経て、法経二名ずつ計四名の教員がリードしながら全学生参加型のディスカッションを行う、という形式で授業が展開された。 法学科では、25年度後期に学務情報システム内のポートフォリオ機能の利用を開始し、学生による将来のキャリアを見据えた目標設定や総合的学習計画、履修計画と、大学生としての学習の実践の記録を明示しやすくし、それに対する教員のサポート体制を整えた。他の3学科も導入を検討している。
達成年度（予定を含む）
平成27年度から始まるアジア・ブリッジ・プログラム、平成28年度以降新設予定の地域創造学環、国際日本学プログラムでは、人文社会科学部生も履修できる副専攻プログラムを用意する予定である。これらの検討の過程で、人文社会科学部自体のカリキュラムについても平成27年度中に見直す予定である。

要改善事項
国際化に対応した外国語（特に英語）能力獲得
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
専門科目としては、英語による授業ができる教員採用を検討する（来年度以降の人事計画作成時まで）。また授業を新たに英語で行うことを決定した教員に来年度の研究費増額を検討する（シラバス作成時期まで）。共通科目の英語については、TOEIC得点別に、履修モデルを作成し、広報する他、教務委員会で実態を調査する（今年度末まで）。授業外では英語のみで会話するEnglish Caféを週一回開設する（10月開始）。
改善状況
平成28年度から設置予定の「国際日本学プログラム」に関連して、英語による授業ができる教員採用が進んでいる。 交流協定締結校から訪問の教員が英語による授業を行った。また、授業を英語で行う試みが始められている。 English Caféは定期的に行われており、かなり知られるようになり、希望者が集まっている。英語詩朗読（ピアノ曲つき）のイベントの企画のために、希望者が集まり、発音クリニックを行い、教員と学生のグループで朗読練習をし、発表の機会をつくった。
達成年度（予定を含む）
平成27年度。

要改善事項
フィールドワークなど体験型教育の一層の充実
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
各学科別に行われているフィールドワークの実態を調査し（今年度末まで）、学部長裁量経費を利用するなどしてさらなる充実・拡大を図る。学部横断的なフィールドワークの試みができないか検討する（今年度末まで）
改善状況
社会学科では1年次から始まるフィールドワーク教育とその成果のプレゼンテーション教育を継続、発展している。 県立美術館でギャラリー・トークを行う言語文化学科の授業など、他学科でも、地域との関わりの中で展開している授業がいくつもある。
達成年度（予定を含む）
平成28年度に行う予定のカリキュラム改革では、学部横断的なフィールドワークやアクティヴ・ラーニングをどう教育の中で位置づけるかを検討する。

要改善事項
女性教員・外国人教員の増大
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

男女共同参画を推進する静岡大学の「ビジョンと戦略」を重視し、女性教員が働きやすい環境作りをさらに進めるほか、公募の際に評価が同等の場合は女性の候補者を優先する選考を増やすことを検討する。外国人教員についても全学的に開始された「外国人教員採用加速システム」を利用して外国籍の教員の採用を検討する（来年度以降の人事計画作成までに）。
改善状況
平成27年度採用予定の新任教員8名のうち、2名は女性である。
達成年度（予定を含む）
平成28年度開始予定の「国際日本学プログラム」を担える人材採用にあたっては、「外国人教員採用加速システム」の利用を検討する。

要改善事項
アドミッション・ポリシーの実効性を高める。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
アドミッション・ポリシーを学部案内や学部のホームページ等で見易いところに掲載するなどして、受験生への周知徹底を図る（今年度末までに）。
改善状況
平成26年度に完成した学部案内ではアドミッション・ポリシーを冒頭近くの見やすいところに掲載した。学部案内の電子ブック版はホームページで見ることができるが、さらに見易いところに掲載する必要がある。
達成年度（予定を含む）
平成27年度初めまでに、アドミッション・ポリシーをホームページの見易いところに掲載する。

要改善事項
グローバル化に対応した国際交流の一層の推進
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
在学生の短期・長期留学を増大させるために、提携校の拡大、私費留学やワーキングホリデーの単位化、留学報告会の開催等の手段を講じる（今年度末まで）。また留学生との交流会やEnglish Café（その他の外国語のCaféを含む）の開設を行う（今年度秋までに）
改善状況
提携校への留学については引き続き堅調に行われているが、さらに留学しやすい環境をどう整えるべきか議論している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度開始予定の「国際日本学プログラム」の準備過程で、海外研修単位の増大等について検討する。